

韓国出張のご報告

(2019年9月30日～10月3日)

文責:浜菜みやこ

2019 年10月5日

1、はじめに

この度は、小松社長の韓国出張に同行させて頂き、ありがとうございます。

今回の韓国出張は、先日のポーランド訪問を受けて「韓国にもぜひ足を運んでください」と小松コリアの尹代表からご提案頂き実現した訪問でもありました。

10月1日の「大韓民国国軍の日」には、李承晩元大統領の養子である李仁秀(イ・インス)博士と妻のチョ・ヘジャさんと面会させて頂くという貴重な機会に恵まれました。

李王朝の末裔でいらっしゃる李仁秀博士と面会したことは、これまでの歴史を考えた上でも、日本人である私どもの役割として、大きな特別な意味を持っていると感じます。

今回初めて「安重根義士記念館」を見学させて頂きましたが、柳永烈館長、李惠筠事務局長自ら、3時間以上に渡り、安重根義士の念いや、館内を丁寧にご案内頂きました。

また「西大門刑務所歴史館」は金美正様にご案内頂き、「西大門刑務所歴史館」は「韓国にとってのアウシュヴィッツ」という言葉に、日本人として深く考えさせられました。近年にない厳しい日韓関係の中、このタイミングで小松社長と共に韓国を訪問できたことは大変意義深い体験となりました。

簡単ではございますが、ここにご報告させていただきます。

2、出張日程

9月30日(月)

関西空港→金浦空港 韓国入り

10月1日(火)「大韓民国国軍の日」

10:30 李承晩元大統領の養子である李仁秀(イ・インス)博士と妻のチョ・ヘジャさんとの面会

小松社長、金顧問、英雄朴社長、朝鮮日報 全・ゾンヒ記者、尹代表、浜菜みやこ

12:00 昼食 :小松社長、金顧問、英雄朴社長、尹代表、浜菜みやこ

14:00 「安重根義士記念館」訪問 柳永烈館長、李局長と面会

小松社長、金顧問、尹代表、浜菜みやこ

18:00 ソウルの繁華街を散策。

夕食:小松社長、金顧問、英雄朴社長、尹代表、浜菜みやこ

10月2日(水)

10:00 小松コリア 訪問

新オフィス、新工場、旧工場跡、シート工場、ソウルオフィス見学

小松社長、金顧問、金美正様、浜菜みやこ

12:00 昼食

小松社長、金顧問、金美正様、尹代表、工場長、ソンミンヒーさん、浜菜みやこ

14:00 「西大門刑務所歴史館」見学

小松社長、金顧問、金美正様、尹代表、浜菜みやこ

18:00 夕食

小松社長、金顧問、金美正様、尹代表、浜菜みやこ

10月3日(木)

金浦空港→羽田空港 帰国

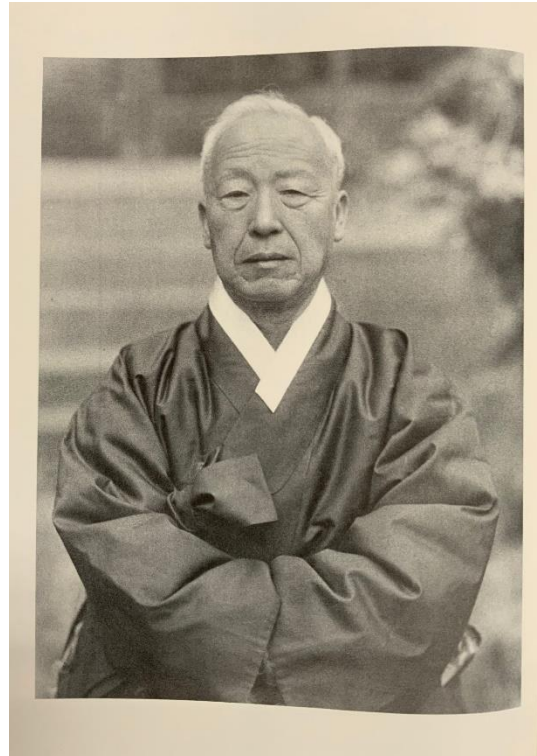
3、

李承晩元大統領の養子である李仁秀(イ・インス)博士と妻のチョ・ヘジャさんとの面会



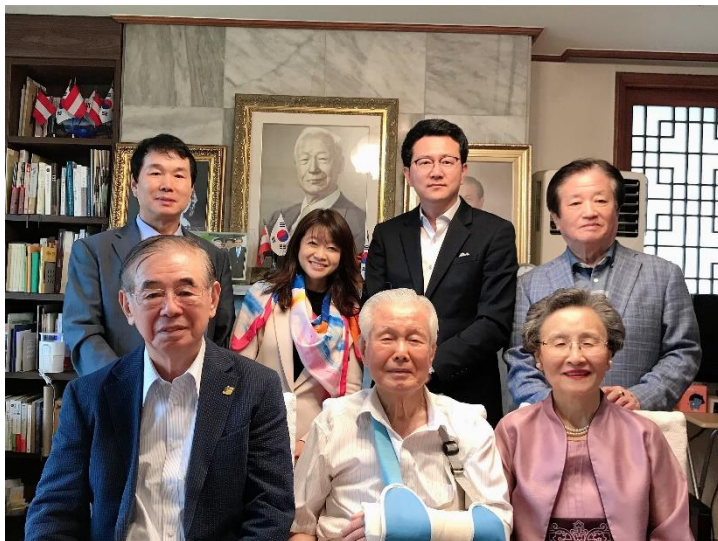
李承晩元大統領の養子である李仁秀博士は、李王朝の末裔でいらっしゃいます。これまでの歴史を考えた上でも、李仁秀博士と面会したことは、日本人である私どもの役割として、大きな特別な意味を感じました。

李承晩元大統領は、朝鮮の独立運動家で、1948 年 8 月 15 日 - 朝鮮半島南部単独で大韓民国政府樹立を宣言。初代大統領に就任。(在任 1948 年 - 1960 年)
大韓民国の初代大統領という韓国の建国の祖でいらっしゃいます。



しかし、韓国国民も日本人もその功績にあまり目を向けていないとお話してくださいました。

歴代大統領で記念館がないのは李承晩元大統領だけとのこと。このような時代だからこそ李承晩元大統領の功績を今こそ見直すべき時で、記念館建設を願っていると話くださいました。



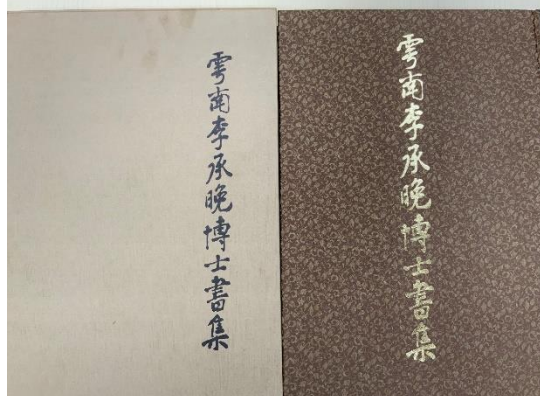
前列左から、小松社長、李仁秀博士、妻のチョ・ヘジャ様
後列左から、英雄朴社長、浜菜みやこ、尹代表、金顧問
(後ろは李承晩元大統領の写真も写っています)

庭には李承晩元大統領の銅像もあります。

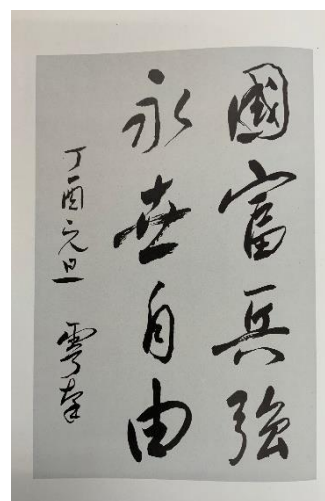
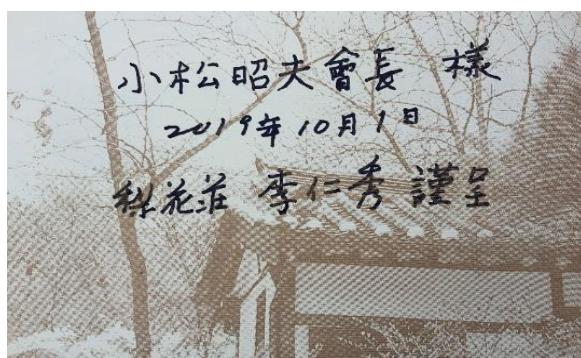
左から、尹代表、英雄朴社長、小松社長、金顧問、浜菜みやこ



李承晩元大統領が身を隠すために支持者の人たちが用意したという家。オンドルつきの民家です。



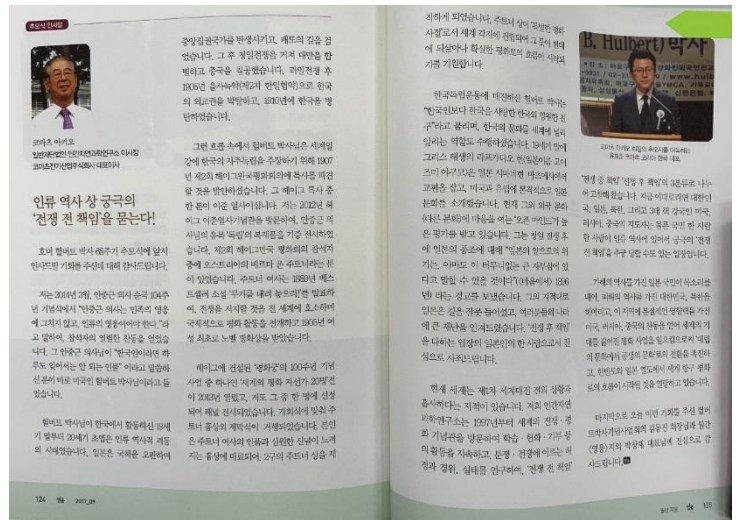
李仁秀博士から小松社長へ李承晩元大統領の書集の贈呈がございました。



今回「英雄」という雑誌を刊行しているコリアウラ代表の朴昌宰(パク・チャンジェ)社長のご紹介で、李承晩元大統領の養子でいらっしゃる李仁秀博士と面会することができました。

月刊「英雄」は国境を越え、世界の真の英雄を多方面から取材し平和に繋がる大切な情報を伝えていらっしゃる貴重な雑誌です。

「英雄」では小松社長も紹介されています。



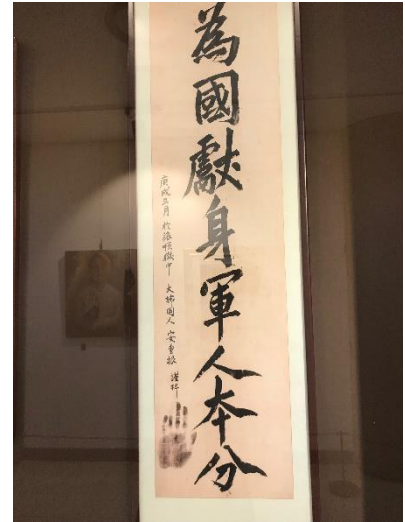
4、「安重根義士紀念館」訪問



左から:金顧問、浜菜みやこ、小松社長、柳榮烈館長、李局長

はじめに柳榮烈館長、李局長と面会し、1 時間半以上に渡り、安重根義士の生い立ちや、功績、そして東洋平和に対する念いを伺しました。





そして、その後、さらに 1 時間半以上に渡り、丁寧に展示をひとつひとつ説明してくださいました。



記念館には安重根義士の力強い遺墨が多数飾られていました。

5、「西大門刑務所歴史館」



今回初めて訪問した「西大門刑務所歴史館」ポーランドもご一緒させて頂いた、金美正さんにご案内頂きました。

「ここは韓国にとってのアウシュヴィッツ」という言葉に、日本人として深く考えさせられました。



「西大門刑務所歴史館」はソウル市内、独立門のすぐ近くに位置しています。刑務所として使用されていた建物をそのまま利用し、史料の展示や、当時の取り調べの様子を再現している歴史館です。



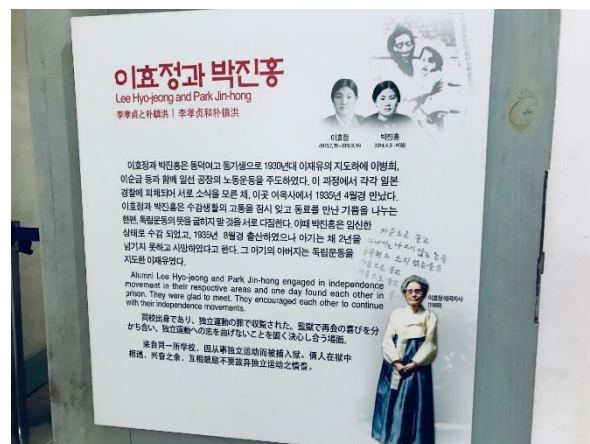
収監された方々の写真が壁一面に貼られています



ここは実際に 1987 年まで、現役の
刑務所だったところで、日本帝国
主義時代には、祖国の独立を勝
ち取ろうと戦った独立運動家の人
たちが収監され、終戦で日本が撤
退した後には「民主化を成そう」と
韓国の独裁政権に立ち向かって
戦った民主化運動家の人達が収監されていました。



収監された女性の方々の展示も多く
見学者の人たちの目を引いていました。





目を背けたくなるような展示は、過去の歴史を語っています。

ただ私たちは過去を変える事は出来ません。

過去の歴史を受け止めたら、未来にそれを活かすしか、私たちが「対立の文明から共生の文化へ」の道を「あゆむ」すべは無いと感じました。

6、所感

この度は、小松社長の韓国出張に同行させて頂き、ありがとうございます。

近年にない厳しい日韓関係の中、ポーランド訪問後というこのタイミングで小松社長と共に韓国を訪問できたことは大変意義深い体験となりました。

このような機会を下さった小松社長はじめ、小松コリアの尹熙竣(ユン・ヒジュン)代表、ご協力を頂いた社員の皆様にまずは感謝申し上げます。

今回「英雄」という雑誌を刊行しているコリアウラ代表の朴昌宰(パク・チャンジェ)様のご紹介で、李承晩(リ・ショーバン)元大統領の養子でいらっしゃる李仁秀(イ・インス)博士と面会することができました。

李承晩元大統領は、大韓民国の初代大統領という韓国の建国の祖でいらっしゃいます。

そしてご養子の李仁秀博士は、李王朝の末裔でいらっしゃいます。これまでの歴史を考えた上でも、今回の面会は、日本人である私どもの役割として、特別な意味を持つものと感じました。

李仁秀博士のお話では、李承晩元大統領は、大韓民国の初代大統領という韓国の建国の祖だけれど、韓国国民は、その功績にあまり目を向けていない、記念館が無い大

統領は李承晩だけだ、と残念そうにお話ししてくださり、韓国の複雑な歴史も感じました。

普段なかなかお目にかかることができない李仁秀博士とのご縁を繋いで下さった朴昌宰社長は雑誌「英雄」を刊行しています。「英雄」は、国境を越え、世界の真の英雄を多方面から取材しその功績を伝えていて、小松社長も紹介されています。

「安重根義士記念館」では柳永烈(ユウ・ヨンヨル)館長、李惠筠(リ・ヘギュウン)事務局長自ら、3 時間以上に渡り、安重根義士の念いや、館内を丁寧に案内して下さいました。安重根義士はヨーロッパの侵略から守るために「東洋平和論」を掲げていました。平和のためには日本と韓国、私たちは力を合わせるべき。平和こそ力が必要。と訴えていたそうです。

残念ながらその思いは届かなかったのですが、韓国と日本、それぞれ歴史の受け止め方も違うところがありますが、なぜそうなったのか、その背景、プロセスをきちんと知ることが平和への道しるべとして大切だと感じました。

今回、ソウル市内にある「西大門刑務所歴史館」へも足を運びました。

ここは、1987 年まで、現役の刑務所だったところで、日本帝国主義時代には、祖国の独立を勝ち取ろうと戦った独立運動家の人たちが収監され、終戦で日本が撤退した後には「民主化を成そう」と韓国の独裁政権に立ち向かって戦った民主化運動家の人達が収監されていました。

ここを案内して下さった韓国人の金美正(キム・ミジョン)様に「ここは韓国にとってのアウシュヴィッツなのよ」と言われた時は、正直打ちひしがれました。

目を背けたくなるような展示は、過去の歴史を語っています。

私たちは過去を変える事は出来ません。

過去の歴史を受け止めたら、未来にそれを活かすしか、私たちが「対立の文明から共生の文化へ」の道を歩むすべは無いと強く感じました。

小松社長は「私たちには戦後責任がある」とおっしゃいます。戦後責任とは、戦争にいたった経緯と背景、そして現代社会の問題を調査研究し、その成果を、再び戦争を起こさない事と、恒久平和を生み出す資源として生かすことなんだ。と話して下さいました。

私の担当するラジオ番組でも今回韓国で見聞きした話を伝えさせて頂きました。その中でリスナーさんからこんな論語の言葉を教えて頂きましたのでご紹介します。

「四海同胞(しかいどうほう)」

「四海」とは四つの海の方角のことから、全世を意味し、世界中の人々はみんな兄弟のように仲良くすべきだということ。礼儀と真心をもって接すれば、世の人々は兄弟のように親しくなる。

今回の韓国の旅では人間自然科学研究所の金顯哲(キム・ヒョンチョル)顧問とご一緒させて頂きました。

金顧問は小学校6年までソウルで国民学校に通い、日本の教育を受けたそうです。今も日本語が達者で、私とは日本語で話をしてくださいました。

現在金顧問は、子どもたちに合唱を教えていて、年に何回か日本にもきて、日本の子供達と韓国の子供達と、合唱を通じて交流をしているそうです。

日本の統治時代を経験されていても、日本と交流をされるのは何故ですかと、思い切って伺わせて頂きました。

金顧問は「なんと言っても日本は世界で1番近い国だから、隣同士、親しく仲良く暮らしていかなければならないと思っている。だから合唱を通じて、子どもたちが日韓友好で親しみを持って育てば、大きくなっても日韓友好が続く。だからだよ」と、話してくださいました。

未来を考えて、子どもたちと日韓友好を築いている金顧問の活動にも感銘を受けました。

小松社長が日ごろからおっしゃっている

「対立から共生の文化へ」今、やるべきことをやる。

「楽しく持続的に生きられる世界を作る。私が作る」

この言葉を強く意識した韓国出張でした。

この様な機会をくださったことに、改めて感謝を申し上げ私の所感とさせていただきます。